

コラム 幻の日本海大博覧会

■日本海大博覧会の開催決定

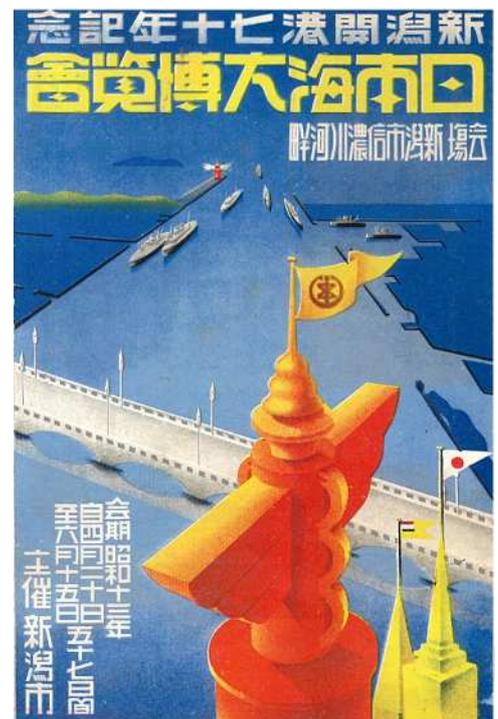
昭和11（1936）年4月24日、新潟商工会議所主催の懇談会において、新潟県と新潟市は博覧会の開催を決定しました。また、8月11日には博覧会名を日本海大博覧会とし、信濃川河畔の埋立地を会場に昭和13（1938）年4月20日から6月15日まで開催することを決めました。この博覧会は、新潟開港70年と市制50年を記念したもので、新潟港の現状を紹介するとともに、日本と満州国の親善や産業文化に資することが目的でした。

博覧会では、日本をはじめ朝鮮、台湾、樺太、関東州（中国、遼東半島南端部）、南洋（ミクロネシアの島々、フィリピン・インドネシア諸島など）、満州国の産業・文化を取り上げるとともに、会場には開港記念館や日本海館など15の施設を設ける計画でした。このほか、新潟県染織館や新潟県銘酒館といった新潟県の産業や名産を紹介する特設館も設置する構想でした。

■延期・中止へ

昭和12（1937）年10月、博覧会の開催を昭和14年度に延期することが決まりました。日中戦争が拡大する中で、内務省より地方自治体の催事は遠慮すべきとの通達があったことが要因でした。

昭和13年4月18日には、博覧会を開催する予定であった新潟市・仙台市・京都市・松江市・甲府市の5都市が集まり、内務省で博覧会関係五市協議会を開催し、博覧会の開催について協議しました。この際、仙台市・京都市・甲府市は、戦時下であることに配慮し、博覧会の開催に反対しました。そして、新潟市もこれに合わせるかたちで博覧会の中止を決定しました。



博覧会の開催を記念して作成された絵葉書（当館蔵）